

香川から国語授業を変える！ ワークショップ型国語授業のためのシート集作り

代表者 林 史織（教育学部 4年）

1. 目的と概要

マンネリ化している小・中学校の国語科授業を変えるために、参加・体験型のワークショップタイプの国語授業の指導案とワークシートを開発し、すぐに実践できるシート集を作成する。

2. 実施スケジュール

平成 19 年 7 月	ワークショップ型授業に関する文献購読、実践に関する打ち合わせ
7～8 月	リテラチャーサークルを三回実践（山本）
10 月	ライティングワークショップ単元案の構想と検討
11 月	附属高松小学校にてライティングワークショップ実践 （林四回、亀山四回）、同校教諭により指導を受ける リテラチャーサークル実践校（埼玉県）訪問、実践されている同校教諭に指導 を受ける（吉岡）
10 月～1 月	ワークショップ型単元案開発・実践・検討 附属高松小学校におけるリテラチャーサークル実践参観、同校における現職教 育の討議を傍聴する リテラチャーサークル原稿執筆（吉岡）
平成 20 年 2 月	ワークシート集原稿執筆・整理
3 月	ワークシート集『楽しい国語科ワークショップ』印刷・配布

3. 成果の内容及びその分析・評価等

現在、小・中学校における国語科の授業は、教師主導型で、マンネリ化していることが多い。これでは、子どもたちの興味を引き、目を輝かせるような授業はできない。特に、新任教員にとっては、どのように子どもたちを主体的に国語学習に取り組ませるかが、最も頭を悩ませる課題となっている。そこで、欧米で盛んに行われているワークショップ型の授業を国語科に取り入れることを目的とした。

ワークショップ型の国語授業とは、子どもたちが積極的に参加し、体験することのできる学習である。具体的には、①子どもたちが小グループで色々な役割を分担しながら一つの物語を読むリテラチャー・サークル、②子どもが作家になり、一つの詩集や本を制作するライティング・ワークショップ、③一時間程度で気軽に実践できるワークショップ単元、の三つを試みることにした。



リテラチャーサークルの授業

このような国語授業は、香川県はもちろん、全国でもほとんど行われていない。このプロジェクトの持つ意義は大きい。

まず、リテラチャーサークルについては、日本にほとんど紹介すらされていないため、アメリカの文献を購読し、ワークシートを翻訳することから始めた。それをもとに、7月から8月にかけて、大学生・一般成人・現職教員、それぞれを対象として実践した。また、埼玉県において実践されている岩瀬教諭のリテラチャーサークルの授業を参観し、実践について指導を受けた。また、附属高松小学校において実践されている山村教諭の授業を参観し、指導を受

けた。それらを踏まえて、リテラチャーサークルについてその方法と意義について執筆し、ワークシートを作成した。

ライティングワークショップについては、ストーリーマップを用いた物語作りと、意味マップを用いた詩集作りを行うことにした。それぞれ、附属高松小学校の三年生と二年生において各四時間実践し、担任の先生から指導を受けることができた。それをふまえて、単元案とワークシートを改良した。

ワークショップ単元については、国語研究室の三年生が一つずつ単元案を開発し、お互いを生徒役として模擬授業を行い、単元とワークシートを改良した。

以上の実践と検討をもとに、ワークシート集『楽しい国語科ワークショップ』を制作し、印刷発行した。



ライティングワークショップの授業

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

今後、完成したシート集を、県下の小・中学校や教育委員会・教育事務所等に広く配布する。また、附属小・中の研究会等でも参加者に配布してもらう予定である。シート集の指導案・ワークシートはすぐにコピーして使用できるようになっているので、手軽に毎日の国語授業で実践・追試できる。それによって、受け身の授業から、参加・体験型の国語学習への変化が、地域社会に広まっていくことが期待される。



詩集作りの授業

また、今回、国語教育関係の授業（国語科授業研究等）で、シート集に収録する授業のアイデアを開発し、実践した。また、単元案について、院生の現職教師や附属の先生により、現場の観点から様々なアドバイスをもらうことができた。このような経験を通じて、学生の国語教育への学習意欲が高まった。また、教育実習や、学生による模擬授業において、実際にシートを用いて国語授業を行い、改良していくことを通じて、教員になるための実践的な学習を行うことができた。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

中心メンバーである四年生の感想を次に記す。

◎今回、自分で考えたワークショップ型授業を実践することができて実感したことがあります。それは、構想することと実践することは全く別であるということです。

児童は自分の予想通りに理解してくれず、なかなか自分の思うように授業は進みません。授業の反省からワークシートを作り直したり、授業の内容を大幅に変更するなど、本当に大変でした。なので、児童がよい発言してくれたり、素晴らしい作品を書いてくれたりした時は、本当に嬉しかったです。夢プロジェクトという活動を通して、私はますます教師になりたいという思いを深めることができました。（林）

◎リテラチャーサークルに出会ったことで、読書の楽しさを今まで以上に伝えていきたいと思うようになりました。実際に参観したときの子どもの生き生きとした姿や笑顔がとても印象的です。楽しみながらお互いに学び合っている姿こそ、大事であると改めて気付くことができました。（吉岡）

◎私は『詩人になろう』という単元で指導案を作り、そして実際に附属高松小学校で授業をさせて頂きました。教科書には無い、オリジナルの単元を作り、授業をする機会は滅多に無い機会なので、とても良い経験になりました。今回のプロジェクトに参加する事で、自分がやってみたいと思った授業を考えて、実践する事で、やってみる事という事の大切さと、授業をする事の楽しさを学ぶ事ができたと思います。（亀山）



授業は大変だけど・・・

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

香川県下の小・中学校に広く紹介し、実践してもらうことによって、香川県の国語科授業を変えていくことを目的としたが、ワークシート集作成に時間がかかり、印刷がぎりぎりとなったため、配布することができなかった。来年度、附属学校の研究会等を通じて無料で配布し、批評を受けたい。

また、できれば来年度以降もプロジェクトを継続して、次回は読書に焦点を当てたワークショップを開発実践したい。

7. 実施メンバー

代表者	林 史織（教育学部4年）	
構成員	亀山ユミ（教育学部4年）	吉岡明香（同学部4年）
	大浦未央（同学部3年）	品地沙由理（同学部3年）
	田原佳菜（同学部3年）	平尾瑞恵（同学部3年）
	前田沙希（同学部3年）	三宅里奈（同学部3年）
	山本茂喜（教育学部教授）	